

「徳島県みどりの食料システム戦略基本計画（素案）」に対するパブリックコメントの実施結果について

令和4年12月14日から令和5年1月10日までの間、パブリックコメント制度による意見を募集したところ、5名の方から9件のご意見・ご提言をいただきました。ご意見に対する県の考え方は次のとおりです。

NO.	いただいたご意見の概要	ご意見に対する県の考え方
1	補助金の活用を含めても飼料米の倉庫及び機械を揃えられる畜産農家があるかは疑問がある。この素案の中で、畜産に関する内容については、改めて新しい提案をすべきではないか。	ご意見をいただきありがとうございます。 基本計画（案）において、国際情勢の影響による飼料価格の高騰対策や、耕畜連携の強化により飼料用米の地域内流通の拡大を推進し、食料安全保障と経営の安定化を図って参ります。
2	県はみどりの食料システム戦略を推進するにあたり、寡占化状態に有る流通と消費者の関係論に於ける農業生産の在り方について、どの様な関係構築が必要と考えているのか。	ご意見をいただきありがとうございます。 有機農業等、環境負荷を低減して生産された農産物の価値や環境保全への貢献について、流通業者、消費者の正しい理解が得られるよう、交流会や食育の実施を基本計画（案）に盛り込んでおります。
3	<p>4 ページ （1）露地物の作物を増やすこと（冷暖房の温室を減少） （3）地産地消で流通のコストや燃費の削減</p> <p>5 ページ ウ 小規模農家の集約</p> <p>6 ページ イ 法人経営支援に加えて . . . の強化</p> <p>7 ページ すべてに後継者の育成（農業・工業・漁業の職業教育の充実）</p> <p>12 ページ 付加価値の高い物から、日常の使用の作物の重視 （昔見学で、ある試験場では、県内産は安いのを作ると値崩れすると言われた）</p>	ご意見をいただきありがとうございます。 ご指摘のとおり地産地消の推進や法人経営の支援は、農林水産業全体での環境負荷低減を図る上で必要な取り組みであると認識しております。その他のご意見についても、今後、戦略に基づく施策を展開する際に参考とさせていただきます。

NO.	いただいたご意見の概要	ご意見に対する県の考え方
4	<p>みどりの食料システム戦略基本計画策定に当たり「徳島ならではの」の計画とすることが宣言されているが、どのような特徴が「徳島ならではの」なのか。</p> <p>D XやA I、I o Tの活用について、全ての農林漁業者が取り組めるものではない。これら革新技術の社会実装におけるデジタル格差をどのように調整するのか。また、これら技術は短期間の内に大幅に進歩しており、単年度的な事業ではなく、長期的な技術導入の取組が必要と思われるが。どのように対処するのか。</p> <p>環境負荷低減に関する新技術の開発・普及、事業者・教育機関との連携と記載が為されていますが、県の研究所の役割はどのようなものになるのでしょうか。また農業者からの要望・提案はどのような経路が想定されるのか。有力な研究に対しては、県が主体になりクラウドファンディングなどの手法も検討して欲しい。</p> <p>エシカル消費・エシカル農業について、食糧と食料という異なる議論においても、共通の概念ということで良いのか。また基本計画において想定するエシカル消費者の地域とはどの範囲を想定しているのか。</p>	<p>ご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>環境負荷低減事業活動の促進による環境負荷の低減に関する目標や、事業活動の内容など、法に基づき都道府県基本計画に記載することが必須となっている6項目に加え、生産現場での取組に加え、「調達」「加工・流通」「消費」の経済循環の各課程、特に「消費」の分野に係る施策をとりまとめた点が本県の基本計画の独自性となっております。</p> <p>A IやI o T技術は、持続可能な農林水産業の実現に不可欠な「環境負荷の低減」に有効な技術と考えています。これらの技術の産地実装に際しては、関係機関と連携した実証試験や実演会等を通じて、生産者の皆さまにご理解いただきながら進めて参ります。</p> <p>環境負荷低減をはじめとする新技術の開発については、国、大学、民間事業者等と連携して取り組んでおり、県内の生産環境に応じた技術の開発や実証試験を担当しています。これらの研究開発の実施には、様々な国費制度の活用やクラウドファンディングによる研究費の調達など、あらゆる財源の確保について検討して参ります。</p> <p>エシカル消費者の地域の範囲は県下全域を設定しております。</p> <p>いただいたご意見は今後、戦略を推進する上で参考とさせていただきます。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県が NTT 西日本と一体となって、ICT スマートアグリによる農業の近代化を推進する。⇒オランダ式 ICT スマート農業の実践 ・徳島県が「日本の台所とくしま」、日本の新鮮食料供給基地とくしまから「世界の台所とくしま」、「世界の新鮮食料供給基地とくしま」へと進化・発展して「農林漁業王国とくしま」になる。 ・徳島県が徳島県西部圏域の耕作放棄地又は遊休農地を開墾して、大麦、小麦、大豆、小豆、トウモロコシ、エンドウ、そら豆などの穀物類を栽培して、徳島県が「日本の穀倉地帯」になる。 	<p>ご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>本県において、既にオランダ型の施設でスマート技術を活用した施設園芸作物の生産が行われております。今後もD XやA I、I o Tは、高品質生産、省力化、省エネルギー化、低コスト化と農業生産のイノベーションに欠くことができないものであり、現地実装により地域のモデルを育成して参ります。</p> <p>いただいたご意見は今後、戦略を推進する上で参考とさせていただきます。</p>

NO.	いただいたご意見の概要	ご意見に対する県の考え方
6	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県が大規模圃場整備、農道整備、農業用水路整備、林道整備、作業道整備、木材流通加工団地の整備、漁港整備等の農林漁業社会資本基盤整備で徳島県の農林漁業の競争力を高める。 ・徳島県が林業架線作業主任者、木材加工用機械作業主任者などの林業の担い手の人材育成を行う。 ・徳島県が徳島ローカル・ドローン特区を創設して、ドローンを活用して田んぼの農薬散布を行う。 	<p>ご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>農林水産業の「とくしまブランド」を支える基盤整備は、計画的な推進と長寿命化対策を行うことで競争力を高めて参ります。また県では林業の担い手育成のため、林業架線作業主任者講習など林業技術研修を毎年実施しております。農林水産業を支える人材の育成は、林業に限らず重要かつ喫緊の課題であることから、実践的技術の習得支援を基本計画（案）に掲げ、推進して参ります。</p> <p>いただいたご意見は今後、戦略を推進する上で参考とさせていただきます。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県、徳島大学生物資源産業学部・グラリスとが一体となって食用コオロギの養殖技術や食品加工技術で、食料不足や食料危機に対応できるようにする。 ・徳島県と徳島大学本部事務局とが一体となって農林水産省及び文部科学省に要望して、徳島大学に獣医学部の開設又は生物資源産業学部にも共同獣医学科の開設を行って、高度人材たる獣医師の人材養成によって、徳島県を北海道、岩手県、群馬県、栃木県、熊本県、宮崎県のように「酪農王国とくしま」にする。 	<p>ご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>県においても、国際情勢や国内の農林水産業の生産状況を受け、食糧危機への対応は喫緊の課題であると認識しているところです。この課題解決のため、県の研究所にて従来より行っている生産性の向上に向けた技術開発や、県内の獣医師の確保について、関係機関との連携のもと、より一層推進して参ります。</p>
8	<p>徳島県は、コウノトリの豊岡以外での初の羽化場所であること、またナベヅル（絶滅危惧種）も昨年には名田橋周辺で越冬するなど絶滅危惧のある動物とも縁があり、神山町などではコオイムシ（準絶滅危惧種）がまだ見られることから、環境保全型農業、生物多様性を訴えた、徳島の特色を生かした農業推進を行って欲しい。</p>	<p>ご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>基本計画（案）では、化学肥料・化学農薬の使用量の減少と併せて、冬期湛水など生物多様性の保全を行う活動を環境負荷低減事業活動として位置づけております。</p> <p>環境保全型農業、生物多様性に配慮した徳島の特色を生かした農業推進を図って参ります。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県が日本一の多種多様な野菜の栽培生産地になる。 ・個々の農家の耕地面積や土壌の実情に基づいて、各徳島県農業支援センターの農業普及指導員と各地域の農業協同組合の営農指導員とが一体となって、農事指導又は営農指導を行う。 	<p>ご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>土づくりや施肥の適正化を図るため、土壌分析を実施し、県農業支援センターにおいて、農業協同組合などの関係機関と連携し、農業者への指導を実施しておりますが、基本計画（案）の推進にあたり、さらに一体となった対応に努めて参ります。</p>